

作品 No.216



生きものの“つぶやき”:

「環境を壊したら私たちが許しません！」

エッセイ:

私は夏休みに家族で燕岳に行きました。コマクサは、そのときに泊まった、燕山荘という山小屋の周りにたくさん咲いていました。

私は、山小屋のご主人から聞いた話がとても印象に残っています。それは、登山客がコマクサの写真を撮るために、登山道を超えてしまったりしたことで、コマクサが生えてこなくなってしまったということです。コマクサの根は、不安定な砂礫地の地下に長く広がっているため、コマクサの地上部の近くの砂礫地を踏むだけで、コマクサの長い地下部分が切れ、枯れてしまいます。しかし、燕山荘のご主人をはじめとする方々の20年にも及ぶ努力により、環境が改善し、再びコマクサが生えてきたそうです。

コマクサは、他の高山植物が生えることができないような稜線の砂礫地を好んで生えているため、「高山植物の女王」と言われています。そのため、植物を代表して人間に何か訴えかけているように見えました。

私は、人間にとって生態系を壊すことは簡単だけど、元に戻すことはとても大変だということを知り、生物の立場になって考えることが大切だと思いました。(454字)

生きものの紹介:

コマクサ(駒草)

駒とは馬のことで、花が細く馬のようだ、ということで名付けられたそうです。ちょっと変わった構造をしていますが、ケシ科の花です。

撮影場所・日時:

燕岳・2021年7月23日

応募者の自己紹介:

1. 三島有倫／お茶の水女子大学附属高等学校・2年
2. 所属：大自然科学部
3. 将来の夢：獣医

審査委員会からのコメント

「高山植物の女王」らしいつぶやき、力強さが感じられます。エッセイも自然保護を訴えるいい文章です。